

# 赤井ゼミ クルーズ&ゼミ視察ツアーレポート

フェリーと地域活性化策(世界初 DMV)、地方港湾視察

2023/03/10(金)-13(月)



<霞が関政策提言ツアー報告書は別途ファイル参照>

## ツアーの概要

赤井ゼミ 政策提言ツアー-2022+春ゼミ旅行案

3月10日

午前

午後

午後

夕刻

大阪大 東京オフィス



財務省プレゼン



水産庁プレゼン



総務省プレゼン



国土交通省プレゼン



3月11日

3月12日

午後

3月13日

午後

オーシャン東九フェリー  
に乗船して徳島へ



船内体験・  
ブリッジ体験



温泉体験



DMVモードチェンジ見学



インフラ視察



# [世界初]に乗ろう。



Dual Mode Vehicle  
Asa Coast Railway Company

(イエロー) 全員参加です。

赤井ゼミ 霞が関政策提言ツアー+ゼミ視察詳細スケジュール					
No.	Date	寄港地	Time	スケジュール	会場 (予定)
1	3月10日 (金)	東京	9:20	集合	大阪大学東京オフィス
			9:35	政策提言ツアー (財務省農林係・公共係・総務係)	財務省
			13:30	政策提言ツアー (水産庁 増殖推進部 栽培養殖課 養殖企画班)	水産庁
			14:45	政策提言ツアー (総務省自治行政局住民制度課マイナンバー制度支援室)	総務省
			16:00	政策提言ツアー (国土交通省道路局国道・技術課道路メンテナンス企画室)	国土交通省
			19:00	交流会 (霞が関で頑張る阪大出身者の会)との合同開催)	創作うどんとおでん居酒屋 あんぷく 虎ノ門ヒルズ店
2	3月11日 (土)	東京	朝から夕方	自由行動	
			17:30	フェリーターミナル行バスに乗車	東京駅八重洲南口
			18:15	東京港フェリーターミナルに集合	2階の発券ロビー
			18:20	フェリー会社によるプレゼン	2階の会議室
			19:30	オーシャンフェリーで徳島へ出港	船内
			20:00	東京ゲートブリッジ見学後夕食 (持ち込みも可能)	レストラン(自動販売機)
3	3月12日 (日)	徳島	朝から夕方	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			8:00	朝食(各自)	レストラン(自動販売機)
				自由行動	
			12:00	ランチ(各自)	レストラン(自動販売機)
			13:20	徳島港入港見学	徳島港湾エリア (船内)
			13:30 ∩	★ブリッジ見学、運航関係者との意見交換	徳島港停泊中 (船内)
			14:10 ∩	★阿波の国視察ツアー (詳細は別紙参照)	阿波の国
			17:30		
4	3月13日 (月)	徳島 ・ 高松	夕方	ホテル到着後、入浴、会食	ふれあいの宿 遊遊NASA
			朝	朝のお散歩(自由参加)	
			7:00	朝食(各自)	レストラン
			7:45 ∩	★阿波の国視察ツアー (詳細は別紙参照)	阿波の国
			10:20		
			10:23	徳島への旅	車内
			12:00 ∩	★徳島港・高松港視察 (詳細は別紙参照)	徳島港・高松港
			17:00		
	17:30	解散 (各自帰路) お疲れ様!	高松駅バスターミナル		

# オーシャンフェリー乗り場案内



## 東京（有明）のりば

Tokyo (Ariake)

〒135-0063  
東京都江東区有明4-8-6  
MAPはこちらから

☎ 03-3528-1011（現場事務所）

※カーナビ・スマホの行先検索でのりばを設定する際は上記のTEL番号を入力してください。  
※無人車引取りは日祝の営業時間にご注意ください

### 公共交通機関からのアクセス



ジェイアール関東バスが東京駅より、りんかい線国際展示場駅・東京ビッグサイト経由で東京港フェリーターミナルまで行く路線バスを運行しております。

また、東京港フェリーターミナルから、ご乗車のお客様は、ターミナル1階の正面玄関前右手のバス停から、東京駅行きのバスにご乗車できます。

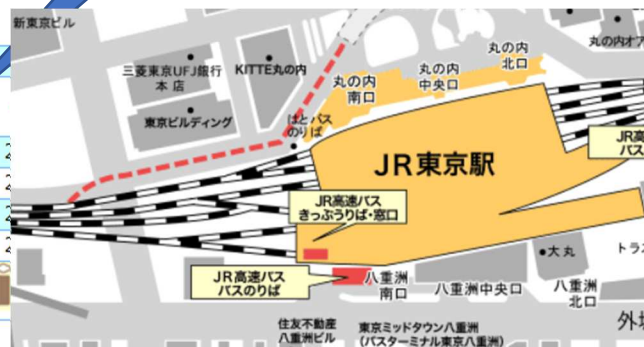
### <下り 東京港フェリーターミナル方面> (全日)

運行会社		JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR
キロ程 (km)	停留所名/運転日注記		◆								
0	東京駅八重洲南口	○	720	820	930	1010	1110	1210	1310	1410	1540
7	国際展示場駅 (りんかい線)	○●	745	845	955	1035	1115	1215	1315	1415	1605
8	東京ビッグサイト	○●	749	849	959	1039	1119	1219	1319	1419	1609
10	東京港フェリーターミナル	●	755	855	1005	1045	1145	1245	1345	1445	1705
設備			IG	IG	IG	IG	IG	IG	IG	IG	IG

17:30 東京駅発に乗ってください。(その他の場所からの乗車もOK)

◆ 11月1日以降当面の間、運休します。  
記号の説明：○乗車バス停/●降車バス停  
バス停名をクリックするとバス停地図が表示されます

運行会社		JR	JR
キロ程 (km)	停留所名/運転日注記		◆
0	東京駅八重洲南口	○	1730
7	国際展示場駅 (りんかい線)	○●	1755
8	東京ビッグサイト	○●	1759
10	東京港フェリーターミナル	●	1805
設備		IG	IG



◆ 11月1日以降当面の間、運休します。  
記号の説明：○乗車バス停/●降車バス停  
バス停名をクリックするとバス停地図が表示されます

# 徳島阿波の国視察スケジュール

日程	行程			
① 3/12 (日)	大型観光バス			
	小松島	道の駅日和佐		
	14:15	休憩		
	四国霊場23番札所 薬王寺参拝	うみがめ博物館カレッタ見学と大浜海岸		
	15:00	15:45	15:50	16:40
	海陽町(泊) 17:30 頃			
② 3/13 (月)	ホテル送迎バス		1班乗車 DMV乗車バスモード	鉄道モード
	ホテル	阿波海南文化村	阿波海南駅	
	7:45発	8:06	8:10	
	バスモード		2班乗車	バスモード
	甲浦駅	道の駅穴喰温泉駅 折り返し	道の駅穴喰温泉駅	
	8:31	8:40	8:46	
鉄道モード		バスモード	ホテルバスに移動	
甲浦駅	阿波海南駅	阿波海南文化村		
8:56	9:16	9:19		
モードチェンジ見学 ホテルバスにて		JR牟岐線・普通車		
阿波海南駅	JR牟岐駅	徳島駅		
9:46	10:23	12:11		

# 徳島港、高松港視察スケジュール

大阪大学 徳島小松島港・高松港 視察行程【JR南小松島駅着 11:47】

時刻	視察等時間	移動時間	場所	備考
3月13日(月)				
11:40	着		JR南小松島駅【徳島県小松島市】	赤井先生・学生 お迎え(11:47着 10:23牟岐発 普通544D)
		0:10	(待機・お迎え)	
11:50	発		JR南小松島駅【徳島県小松島市】	・2班に分かれて乗車(香川マイクロバス、徳島マイクロバス使用)
		0:10	(マイクロバス移動)	
12:00	着		小松島港湾・空港整備事務所【徳島県小松島市】	
		0:15	(昼食購入:事務所近隣のコンビニ)	・事務所会議室での概要説明時に昼食
12:15	着		小松島港湾・空港整備事務所【徳島県小松島市】	
		1:15	徳島小松島港 視察	・2班に分かれて視察(1班、2班) 【1班】 12:15~12:50 概要説明・昼食(事務所会議室) 12:55~13:30 港湾業務艇「ひのみね」より海上視察 【2班】 12:15~12:50 港湾業務艇「ひのみね」より海上視察 12:55~13:30 概要説明・昼食(事務所会議室)
13:30	発		小松島港湾・空港整備事務所【徳島県小松島市】	・2班に分かれて乗車(香川マイクロバス、徳島マイクロバス使用)
		1:40	(マイクロバス移動)	
15:10	着		サンポート高松合同庁舎【香川県高松市】	・南館106サポート室(荷物を保管)
		1:45	高松港 視察	・2班に分かれて視察(1班、2班) 【1班】 15:10~16:00 徒歩にて陸上視察 16:00~16:55 港湾業務艇「さんせと」より海上視察 【2班】 15:10~16:00 港湾業務艇「さんせと」より海上視察 16:00~16:55 徒歩にて陸上視察
16:55	着・発		サンポート高松合同庁舎【香川県高松市】	・南館106サポート室(荷物を回収)
		0:10	(徒歩移動)	
17:05	着		JR高松駅・高速バス乗り場	高速バス(大阪)17:30発&18:30発

当日は、天候不良により、海上からの視察はできず、陸上から視察

【連絡先】



オーシャンフェリー「どうご」船内



オーシャンフェリー「どうご」



世界初 DMV 乗車体験

徳島小松島港視察



高松港視察



## 参加者からの感想

### 目次

オーシャンフェリーの乗船前プレゼンの内容についての感想.....	7
オーシャンフェリー（フェリーどうご）の船内及び食事、大浴場など設備・内容についての感想 .....	9
オーシャンフェリー（フェリーどうご）でのブリッジ見学で学んだこと、感じたこと、感想。 .....	11
四国 1 日目：うみがめ博物館、薬王寺参拝や遊遊 NASA 宿泊で学んだこと、感じたこと、感想 .....	13
四国 2 日目：廃線危機にある地域での地域活性化策の DMV 挑戦について学んだこと、感じたこと、感想 .....	15
四国 2 日目：(徳島) 小松島港視察で学んだこと、感じたこと、感想.....	17
四国 2 日目：高松港視察で学んだこと、感じたこと、感想.....	18
今回のフェリー体験企画（ゼミ仲間と一緒に船で交流し、徳島までフェリーを体験し、寄港地でインフラを学ぶ企画）において得られたこと、感想や今後への要望 .....	20

### オーシャンフェリーの乗船前プレゼンの内容についての感想

1. シンプルフェリーという名の下、他のフェリーと差異化し、競合会社とはまた違った客層をターゲットにしてビジネスを行うという点は非常に戦略的で良いと感じた。フェリーをはじめとする物流業界について、あまり知識がなかったので、基本から教えていただきとてもわかりやすかった。内容ではなく、余談になるが、プレゼンされる時の姿勢が全体的にオーシャンフェリーについて消極的な感じがしたのでもっと積極的に紹介していただけたほうがこちらも聞いていてワクワクするのになと感じた。
2. 私たちのために、わざわざ資料やプレゼンの用意してくださっていたことに感動しました。また、新型コロナウイルスの拡大がフェリーの船社数、輸送量の推移に大きく影響していることを知り、残念に思いました。今回のフェリーでの宿泊は非常に楽しかったため、これを機に移動手段として船を利用してみたいと思います。
3. 東京の港から出ている数少ないフェリーだという点が意外だった。首都から海運で移動できる手段として、災害時に有用であることがよくわかった。また、トラックのモーダルシフトなどと絡めて、環境問題とフェリーの将来性についてかなり真剣に考えてらっしゃることも初めて知った。今後フェリーがどのように環境問題と付き合っていくのか興味がわいた。
4. 私はフェリーに乗ること自体が初めてだったのでその構造や収容数などとても興味深く感じました。特に、日本の貿易量における海上運送は重量ベースで99%を超えているというのが大変興味深い発見でした。それに伴い海上運送が環境にやさしい輸送方法だというのもイメージと逆で印象に残りました。
5. 様々な規制を受けながらも、人件費を削減し、船の機能もシンプルにすることで、運送に特化し運航数を増やしているというところに工夫が感じられた。瀬戸内海を通れば九州まで

近い、陸に添わず沖合に行く方が移動距離が短いと感じたが、そこにも様々な規制があり、想像以上に海上での法規制が強いことが分かった。

6. 前回、夏のゼミ旅行でお世話になった大きなフェリーは、映画館やピュッフェなど豪華な施設を通じてアミューズメント面で顧客に満足してもらおうというコンセプトを感じましたが、今回のオーシャンフェリーさんは、船の需要が少なくなってく中で、よりコストパフォーマンスに重きを置いて、コスト面で顧客に満足してもらおう事を大切にしていると感じました。
7. 私自身旅行はたくさんするが移動手段としてフェリーを選択することは少なく、どのように生計が成り立っているのか気になっていたのが、貨物輸送がほとんどだと知り、納得した。また、災害時に陸路が遮断された時の輸送手段としても使用されるということで改めてフェリーの重要性を理解した。
8. フェリーの役割について、普段の輸送以外にも震災など災害時に道路が使えなくなった場合に物資を届けるという重要な役割があると知った。フェリーの需要が減り航路が減り続ける中でも、航路を廃止せずに維持し続ける必要があると分かった。省エネなどの観点からフェリーはやはり強みがあり、省エネに向けた開発も進んでいると知ることができた。
9. これまでのゼミ旅行で乗ったことがあるフェリーとの客層ターゲットの違いや、規模の違いについて学び、様々なフェリーが連携しあって日本の物流を支えていることを学んだ。海運業界を志望する学生が少ないというお話があったが、どの程度深刻な問題なのかまた調べてみようと思う。
10. 東京はフェリーに乗る人があまりいないというお話が特に印象的だった。確かに、東京からどこかに行こうと思うときに、フェリーという選択肢は思いつかないと感じた。その上で、シンプルフェリーという戦略をとっていることがすごく合理的だと思った。一方で、大阪や神戸はフェリー人気が高く、東京にはない関西の魅力を知ることができたように思う。
11. 日本のフェリーの歴史や、現在どのようなフェリー会社があって、どんな船が何隻あるのかといったことを新たに学べた。今までのフェリーが豪華路線だったので、シンプルフェリーという観点でフェリーの役割を学ぶことができた。また、フェリーの今後の課題が諸々の社会課題と連動する部分があり、興味深かった。
12. 海運の現状やそれにおけるフェリーの役割など幅広く学ぶことが出来た。最初におっしゃっていた、「東京の方はフェリーに乗る機会がほとんどない」というのは意外に思った。大都市においてフェリーは、貨物・旅客共にある程度メジャーな手段であると思っていたため、東京を拠点としているフェリー会社がほとんどないのは余計に意外であった。
13. シンプルフェリーとそれ以外のフェリーの違いをご説明いただき、知見を深めることができました。また、旅客と貨物の収益割合をお伺いし、旅客収入による収益は微々たるものであることを知り、今まで自らが抱いていたイメージと異なり、興味深いなと感じると共に、フェリーの物流機能の大きさも感じました。
14. 船のサイズと燃料の消費量は比例しないことを初めて知り、驚きました。とはいえ、クルーズ船などでは船のサイズが大きくなればなるほどアミューズメント施設などが増えるため、一概には言えないだろうとも思いました。また、船内のWi-fi環境について、船員確保にも関わる問題だとしつつも、通信料が高いと話されていたのが記憶に残っています。船の労働環境は他に比べて特に過酷だと思うので、人材確保にも力をいれなければならないのは大変だと思います。
15. シンプルフェリーを知らなかったのが勉強になりました。これまでのフェリーでのプレゼンテーションでも伺っていましたが、旅客による収入よりも荷物による収入の方が遙かに大きいということはフェリー体験がなければ知らなかったことなので、たいへん勉強になりました。
16. 港の有無による食卓の違いを視覚的に見せていただいたのは、港の重要性を認識させると



いう点で効果的であるなど感じました。スケールメリットを狙った大型化やそれを利用するための水深整備など、すぐに理解できるようになり、今までの港湾学習が身についているなど感じました。

17. これまでのフェリー企画で同様のプレゼンテーションを何度か聞かせていただいていたものの、今回のプレゼンテーションを通じてフェリー業界の課題や現状が非常に理解でき、フェリー会社での企画業務などに少し興味を抱くようになった。
18. 海運の現状や、トラックドライバーの2024年問題等については、今までのフェリーでも同様のことが言われており、今回東京からの航路でもそのような状態であることを知って、このことが日本全国で大きな問題となっていることを実感しました。そのような中で、後述のような設備等の簡略化などは今後他の船でも広まる可能性はあるのではないかと感じました。
19. オーシャンフェリーの特徴である「シンプルフェリー」について、非常によくわかる説明だった。学生にはありがたいと感じた。説明していた方が設備面の説明の際には、謙遜しながら説明されていたのをよく覚えている。
20. シンプルフェリーというオーシャンフェリーならではの戦略を大変わかりやすく解説して頂き、理解が深まりました。その際、今までに乗ったことのある他のフェリー会社との違いなども紹介して頂き、具体的なイメージをつけることができました。

## オーシャンフェリー（フェリーどうご）の船内及び食事、大浴場など設備・内

### 容についての感想

1. 船内はシンプルフェリーという名の通り、シンプルでしたが、清潔感がありました。大浴場も清潔で気持ちよかったです。食事に関しては、面白さもあり、味も良かったです。量と質の割には値段が高いような気がしました。他のフェリーとの差異化という意味でシンプルに効率的に運ぶ戦略は有効だと思いました。
2. 船内での食事、入浴、睡眠などすべてが初めての経験でしたが、想像していたよりもずっと快適で、あっという間の一泊でした。波が穏やかだったこともあってか、揺れが少なかったのも驚きでした。シンプルな船だと聞いていましたが、設備や環境は十分すぎるほどに整っており、また利用したいなと思いました。
3. フェリーで一日過ごし、確かに無駄のないシンプルなものだと思った。足りないものはなく快適に過ごせた。特に、水分が自由に飲めたり、お風呂が広くてきれいだったことが良かった。自動販売機の食事も船内だからと言って驚くほど高価格ではなく、需要に沿った適切な内容だと感じた。移動+宿泊ができる施設として、かなりコストパフォーマンスが高いと感じた。
4. シンプルフェリー戦略を採用しているフェリーに乗ると聞いたとき海上での快適さが不安でしたが、とても快適に過ごすことができました。旅客を効率的に運ぶと言っても、旅客の快適さを重視していると感じられてとても素敵な戦略だと感じました。
5. シンプルフェリーと聞いて、様々な施設が粗悪なのかと勝手に想像してしまいましたが、大浴場はホテルの大浴場のように充実していてびっくりした。
6. レストランがないとはいえ、レトルトの食事でも中華や和食、洋食に加えておつまみやフルーツもあるという充実ぶり、またインスタントラーメンやアルコール類、アイスやお菓子も揃っており、コンビニ顔負けの品ぞろえだと感じました。旅客を効率的に運ぶという点では、こうして機械を取り入れることで人件費の削減につながっていると感じました。

7. 旅客をシンプルに運ぶという点において、より安価な旅を提供するために冷凍食品自動販売機を導入するなどの工夫がなされている点は面白かった。
8. 太平洋を通るフェリーはかなり揺れるイメージだったが、今回は揺れが穏やかでよく寝れた。自動販売機でのご飯は普段経験できないため面白かった。シンプルなフェリーでこれはこれでありだと思った。
9. 期待以上のフェリーで十分くつろいで過ごすことができた。自動販売機で商品を選んでいる時間は思っている以上に楽しく、またドライバーの方もお酒を飲みながら会話を楽しまれているようで、シンプルフェリーとはいえ、食事をして交流するには十分な設備だと思った。大浴場が24時間開いているのも個人的に良かった。
10. シンプルフェリー戦略で、以前乗ってきたフェリーよりもグレードが低いというようなお話はあったが、快適に過ごすことができた。足りないと思うような設備もなく、冷凍食品の食事は新鮮味があった。レストランがないからこそ、オープンスペースを食事以外にも自由に広く使うことができ、乗客同士の距離も近いようなところがいいところだと思った。
11. 自販機が充実していて、みんなでカップラーメンを食べるなど、いつもとは違う体験ができ楽しかった。人件費を抑えたいトラック会社にとっては非常にニーズに刺さるフェリーだと思う。今までのフェリーだと1泊にお金がかかり、その分ドライバーの人件費がかかっていたが、今回のフェリーは旅客はシンプルに、ということで、トラック会社やもしくは費用を抑えて長距離移動したい人にとっては良いと感じた。
12. 大浴場やそれぞれの客室はこれまでのフェリーと変わりなく、非常に快適に過ごすことが出来た。また、冷凍食品やインスタントラーメンを中心とした食事、貨物中心のシンプルフェリーという面から考えれば、非常に理に適っていると思う。ただ、他のフェリーと比較して旅行の一部として乗船し船内を楽しむには少し物足りないかもしれないとも感じた。
13. シンプルフェリーながらも、ロビーは大変しっかりしていたものだったと思います。また、浴場の設備も大変よかったです。食事に関しては、自販機になっていて、最初は驚きましたが、普段とは違う体験をすることができてよいのではないかと感じました。ただ、何度も乗船するとなると、食事に飽きてしまうなどのことが考えられるのではないかと感じました。
14. これまでに乗ったことのあるクルーズは、大阪-門司の名門大洋フェリーだけなのであまり比較することはできませんが、一晚を過ごすのには十分な設備だと思いました。また、名門大洋フェリーではトラックドライバーと一般客の住み分けがされていたような気がしますが、今回はされていませんでした。
15. 普段関わることの無い様々な立場の方と接する良い機会となりました。
16. 寝る場所や大浴場などは十分な設備が整えられていると思いました。ただ食事については、団体の利用は想定していないのか、レンジで混雑する点に不満を感じました。また、鉄道などの安い移動手段と競合しているというお話がありましたが、時間的にも価格的にも、フェリーの方が劣るように感じたため、旅客に対して、時間面や価格面だけで繰り返しの利用を狙うのは厳しいのではないかと感じました。ただ、フェリー自体の良さがあるので、その点をデッキや体験等で魅力的に見せることができれば勝機があるのではないかと思います。
17. シンプルフェリー戦略という観点を踏まえると、その価格帯から私たち学生からすると非常に有り難いと感じた。食事が冷凍食品やカップ麺であった点は人によっては不満足の原因となるかもしれないが、少なくとも私は十分に感じた。浴場は非常に清潔であり嬉しかった。
18. 大浴場については、今までと変わらず特に不便なく利用することができました。食事についても、今までとは異なるものの、自分のタイミングで好きなものを食べられる点は新鮮で、とても良かったです。

19. お世辞ではなく、設備は十分だと思った。船内は非常にきれいで、船員が少ないとは考えられないほどだった。船内の自販機も種類が豊富で、味に関しても十分満足できるものだった。大浴場も広く、シャンプーとボディソープがあったのは嬉しかった。自販機でご飯を選ぶのは新鮮で楽しかったので、また機会があれば利用させていただきたい。
20. シンプルフェリーと銘打ってはありましたが、想像以上に自動販売機や客室内の設備が整っていて驚きました。移動がメインと考えれば十分なほどのサービスが提供されており快適に過ごすことができました。シンプルフェリーという戦略を取られるのも納得感がありました。

## オーシャンフェリー（フェリーどうご）でのブリッジ見学で学んだこと、感じ

### たこと、感想。

1. 初めて、船のブリッジを見学して数えきれないほどのボタンや装置があって正直、驚きました。そして、小さなボタンやレバー一つでもものすごく大きな船体を動かすことができ、何人もの人生を左右するという現実を、実際に目にして、不思議な気持ちになると同時に恐ろしさも感じました。実際にハンドルを動かしてかじをきることができたのは貴重な経験でした。
2. 舵をきる経験ができたことが嬉しかったです。あれほど大きな船なのに、こんなにも軽々と舵をきれてしまうのかと驚きました。また、船の揺れを最小限に抑えるための装置が存在しており、それが非常に小さかったことも非常に驚きでした。貴重な経験を有難うございました。
3. レーダーなどを使って、すべてのシステムがデジタルになっているのが面白かった。逆に、これまですべてがアナログだったことが信じられないと感じた。船の舵を回している様子を見て、意外と角度を大きくつけられるのが驚いた。たくさんの機械があり、実際の運転では誰がどのように操作しているのか想像がつかないほどだったが、ブリッジを見れたことは貴重な体験だった。
4. 実際に操舵室に入りどの機械が何を操作しているかなどの説明を聞くことができたことは今後そうない大変貴重な経験でした。面舵一杯という言葉の印象から船のハンドルは重い印象を受けていましたが、ハンドルが軽くて操作しやすいことがとても印象に残りました。
5. 私自身乗り物酔いしやすいので不安に思っていたが、あまり酔わずにすんだのが、揺れを最小化する仕組みによるものだったと知り、私が乗り物酔いに強くなった訳ではなかったと気づいた。実際に電子海図や操舵を見れてとても興奮した。大きな船の向きを変えるのに、小さなハンドルを少しの力で回すだけでいいというのが、実際に舵を切ってみてわかった。
6. あれだけ巨大な船体を操作しているのが、様々な計器があるとはいえ推進力は片手で動かせるような前後のレバーと、方向、ないし舵切りは車よりも一回り小さいような大きさのハンドルで行われるということに衝撃を受け、またこれら进行操作する乗組員の方の技術の高さと集中力の質の高さに感服しました。
7. 毎度毎度の受信で波や海の状況を確認・判断し、それに応じて速度や方向などを変更して運航していると知り、すごく体力と気力が必要だと感じた。また、複数ある機会をひとつのハンドルで操作するなど、複雑な仕組みもありおもしろかった。海という予測できない自然と向き合い、貨物や乗客を目的地まで届けるという仕事に尊敬の念がわく、そんな時間だった。
8. 非常に多くの危機があり、船を操縦するボタンもいくつもあり壮観だった。レーダーで周りの地形が表示されていくのがゲームでしか見たことがなかったので面白かった。また、この

時代になっても実際に海図を用意して航海をするのだと知ることができた。船のブリッジを見るという機会はなかなかないことで貴重な経験だった。

9. 船がどういう仕組みで動いているのかを実際に見学させていただき、安全に船を走行させるための様々な工夫や機械についてご紹介していただき、船を動かす上で理系の力が存分に活かされているように思った。個人的に、デジタルのマップだけでなく、アナログの地図も活用されているのが印象的だった。船員の方の部屋は、思った以上に広く、陸を長く離れることになったとしてもある程度は快適そうに過ごすことができそうだった。
10. シンプルフェリー戦略で、乗客を効率的に運ぶというお話があったが、フェリーの醍醐味がしっかりと楽しめる点がよかった。甲板が広く、大人数でブリッジを見ることができたのもその一つだと思う。
11. 沢山の機械があり、見ていて面白かった。障害物を検知するために反射を利用しており、ほぼ正確に障害物がモニターに表示されていたものの、暗くて障害物が全く見えないところだと万が一間違いがあったら怖いと感じた。舵を回すスピードと船がその舵通りに方向転換するスピードとの間に、当たり前だが結構なラグがあり、安全に運航するにはかなりの操縦スキルが必要そうだと感じた。
12. 特別な機会がない限りブリッジには入ることが出来ないため、貴重な経験であると共に非常に興味深かった。実際に舵を切ってみた際には、その軽さに驚くとともに、あの軽さで巨大な船が動いてしまうことの怖さも同時に感じた。また、海図やレーダーなどの解説も伺うことが出来、また一つ自らの知見が広がった。
13. ブリッジを見学して、普段見れない操舵室の構造や、役割や機能を知ることができて、大変勉強になりました。カーボンニュートラル実現に向けた取組として、エンジンを1つしか使わない構造にしていることなどをお伺いし、企業や海運産業全体としての取り組みを知ることができ、自分の知見が深まりました。また、実際にハンドルを握らせていただく機会をいただき、よい機会となりました。
14. 1機1軸のお話がとても気になりました。他の船では、リスクヘッジのために2機2軸などの形で運航することが多いが、フェリーどうごでは1機1軸にすることでコストを削減したという趣旨のお話だったと思います。1機1軸のリスクについては少し気になりました。
15. フェリーどうごの見学を通して、様々な器具の付いた壁などわくわくする設備をたくさん見せて頂けてとても楽しかったです。それと同時に、船の操舵方法など勉強になることも沢山教えて頂けて、フェリーについての理解が深まりました。
16. 船を動かしているところを間近に見ることができ感動しました。船のハンドルやレーダー、様々な指標、エンジンに関しての取り組みなど、勉強になることが多かったです。船内の乗組員さんが寝泊まりするところも、日光が入るようになっており、働く環境の整備もされているのだと感じました。
17. 個人的に最も印象に残っていることは、予想以上に設備がデジタル化していたことである。私自身が船舶の知識がなく映画などによる偏った印象しかなかったためであろうが、デジタル化設備が持つ正確性などを活かした運航になっていると感じた。
18. 実際に航行するときによどのような機械で、どのような操作をしているのかを間近に見ることができて、とても有意義でした。特に、ソナーで周囲の様子を確認する際に、何秒か前の影も一緒に表示することを初めて知り、それによって相手との距離や速度を知ることができると驚きました。今までのフェリーでもここまで中に入れたことはなかったため、とても楽しかったです。
19. 実際に船を動かしている操舵室を見るのは初めてだったので、非常に興奮した。また、実際に船の舵を握る経験ができたのも非常に興奮した。様々な精密機器（エコーを利用した障害物発見機など）や海図を見ることができたことは貴重な経験となった。

20. 実際に操舵室に入ってお話を伺えるのは滅多にない経験なので非常に興味深かったです。舵を切ったり、各種計測器、利用されている海図を見たりすることができ、今まで利用したフェリーがどのように動いているのかが分かりました。。

## 四国 1 日目：うみがめ博物館、薬王寺参拝や遊遊 NASA 宿泊で学んだこと、感じたこと、感想

1. うみがめ博物館の方が、来場者の方が減っており、展示もなんとか行っているというようにおっしゃっていました。私が小学校の時に一度近くを訪れたことがあるのですが、私の記憶では当時もっと活気がありました。想像以上に地域の活性化が急務であるという現実を目の当たりにしました。遊遊 NASA では食事が特に印象に残っています。ご飯が進み、ご飯を3杯も食べてしまうほど美味しかったです、
2. 博物館の展示や施設の設備はまだまだ綺麗なのにもかかわらず、もうすぐなくなってしまうという話を聞いて、非常に寂しく思いました。少子化や観光客の減少によって、このような事態に直面している地域は全国に多数存在しているのだと改めて実感しました。遊遊 NASA では、夕食や朝食が魚を中心とした献立で、海の幸を満喫できました！
3. うみがめの博物館は、うみがめの生態など興味を引く展示が多かったが、それ以上に、博物館の老朽化や存続に不安を感じずにはいられなかった。展示の分野の専門性や立地を考えると救済方法が浮かびにくい、面白い博物館だと思ったので、何らかの形で存続してほしい。遊遊 NASA では、食事の海鮮がとても美味しく感動した。
4. なんといってもウミガメがとてもかわいかったです。薬王寺もとても荘厳で、徳島県には様々な魅力があることを認識できました。遊遊 NASA の食事は朝も昼もとてもおいしく、特に海鮮がおいしかったので海鮮好きの自分にはたまりませんでした。
5. ウミガメがとにかくかわいくて癒された。水陸を動き回る姿から両生類かなとも思ったが、クビナガガメなどをじっくり観察していると、表皮の質感に爬虫類っぽさを感じた。遊遊 NASA の料理はどれも素晴らしく、特にお刺身の質がよかったので、寒ブリが一押しというのもよく分かった。
6. テレビや新聞などのメディアでは何度かウミガメの産卵のニュースを目にすることはありましたが、実際にこの目に見ることは初めてだったので、彼らの大きさと、年月の流れを感じさせられる甲羅について見入ってしまいました。また、薬王寺からの素晴らしい眺めや、お宿でのおいしいお食事印象に残っています。
7. 徳島=うみがめ、というイメージは持っていなかったため、小学生のころから教育活動がさかんに行われていることをしり、自分自身も地域に根付いた産業について学んだことを思い出した。伝統や記憶を風化させないための教育の重要性を感じた。参拝では、5時のチャイムを手動で鐘を鳴らしている様子を拝見することができ、趣を感じた。
8. ウミガメが思っていたよりかわいかったのでいくらかでも見ていられた。しかしながら結構さびれており、こういった施設を存続させるか否かの判断は難しいと感じた。薬王寺はかなり山手にあり、景色を楽しむことができたが、お遍路巡りでこういったお寺がいくつも続くと大変だろうなと思った。旅館は温泉や食事をとても楽しむことができた。オートロックで何度も締め出されてやや大変だった。
9. 薬王寺の階段の上から、17時のチャイムを聞きながら町の景色を眺めている時間がとても心地よかった。遊遊 NASA では、大変美味しいお食事をいただき、またゼミ生と今年1年を振り返って色々話ることができたのが良かった。2年生とも、この1年を通して仲良くなれたように思うし、来年も一緒に頑張っていきたいと思う。
10. 徳島で有名なものと聞いて、なかなか頭に思い浮かぶものがなかったが、うみがめ博物館の

- ある海沿いの美しさなど、まだまだ知らない名所がたくさんあるんだろうなと感じた。宿舎は、食事がとてもおいしかった。海産物中心の食事で健康的で、和を感じた。皆で和室に泊まり、集まることは中高の修学旅行などを思い出し、楽しかった。
11. 薬王寺について、階段の傾斜が急で驚いた。寺によっては広い敷地にゆったり構えられているところもあるが、今回の寺は平面の面積が狭い分山を利用して高さがあったので、本寺からの景色がきれいだった。宿について、たまにはフェリーではなく旅館に泊まるのも良いなと感じた。特に食事が豪華でおいしくて、非常に満足だった。夜みんなで1年の振り返りをした後、沢山話すことができ、よりゼミ生同士仲良くなることができたと思う。タオルやドライヤー、歯磨きなど、基本的なアメニティがそろっていて個人的には楽だった。
  12. いずれの場所も非常に自然豊かで美しく、興味深く見学・宿泊できた。特にうみがめ博物館については、うみがめの保護や知見を広めるといった非常に重要な役割を担っているにもかかわらず、立地の面などもあって経営が厳しい状態であると伺った。ある程度仕方のないことではあるが、そのような施設について出来ることを考えていきたい。
  13. うみがめ博物館において、地球温暖化により、かつてよりウミガメが来なくなってしまったというお話や、コロナによって観光客が減ってしまってホテルが閉館になってしまったというお話をお伺いし、地球温暖化の影響や、未曾有の感染症の影響の大きさを改めて感じました。また、このように打撃を受けてしまった企業を支える仕組みや制度が必要なのではないかと感じました。
  14. うみがめ博物館では、普段見ることのないうみがめを間近で見ることができ、貴重な体験でした。また、遊遊 NASA ではシルバー世代の宿泊者が多いのが印象的でした。熊本に住んでいる私の祖父母も、熊本県内で小旅行に行くことが多いようなので、あのような宿泊施設は近隣の高齢者に需要があるということを学びました。
  15. ウミガメ博物館のあった集落は、ウミガメを観光資源として打ち出そうとしている様子が集落全体を通して見られましたが、それでも老朽化や人の少なさや否めず、改めて地方創生の難しさを感じました。同時に、観光だけでは無い持続可能な地方創生を可能にすることが、今後自分としても取り組んでみたいテーマとなりました。
  16. 地域ぐるみでのうみがめに対する支援などを知ることができ、日本で失われつつある地域一体、学校全体による何らかの支援など、これから地域を学ぶにあたって重要な示唆を得ることができました。また、旅館宿泊では、豪華な夕飯、朝食をいただくことができ、温泉に浸かることもでき、交流もできたため、非常に心が満たされました。
  17. ウミガメと一言に口にしても本当に様々な種類があるのだなと驚いた。ウミガメ博物館でないと知り得なかったと思うので良かった。宿泊施設の夜ご飯がとても美味しく、ボリュームもたっぷり最印象に残っており、友人等にもぜひ勧めたいと思っている。
  18. 徳島県南部の自然の豊かさを実感することができました。特に、うみがめ博物館での見学を通じて、学生によってうみがめを守る取り組みが始められたことや、うみがめが実際に置かれている状況について知ることができました。また、宿泊では、とても美味しい食事を味わうことができ、就職後にも遊びに行きたいと思いました。
  19. うみがめ博物館では、かめについて様々な知識を得ることができた。実際に泳いでいるところも見ることができた。薬王寺周辺でお遍路さんを見かけた。将来お遍路してみたいと思った。遊遊 NASA は本当に素晴らしいホテルで、食事もおいしく、お風呂もきれいで、非常に満足した。
  20. うみがめ博物館では中学生の保護活動やカメの生態について理解が深まりました。薬王寺では、四国といえばお遍路というイメージがあり、その一端を体験することができ嬉しかったです。遊遊 NASA は海に見える素敵な部屋で今年1年のゼミの振り返りをそれぞれで行うことで忘れられない思い出になりました。

## 四国 2 日目：廃線危機にある地域での地域活性化策の DMV 挑戦について学んだこと、感じたこと、感想

1. 地域の財政赤字が進んでいる中で、何億もの資金を使って新しく DMV 事業を始めるという思い切った決断に正直とても驚き、大丈夫なのかなと思ってしまいました。このゼミ旅行の企画が決定するまで、DMV について全く知らなかったのですが、乗ってみるとバスから電車に変わる瞬間と変わったあとは乗っていて面白かったです。何度も乗りたいかと言われると話が変わってきますが、旅行のプランの一つとしてあってもいいなと感じました。DMV について、そしてそれが世界初で徳島の右下にあるということ、まずはもっとみんなに知ってもらふ必要があると感じました。
2. DMV は、グッズが道の駅で販売されていたり、私たちが宿泊した遊遊 NASA でも宣伝されていたりと、地域を挙げて推し出されているのだと感じました。お恥ずかしい話ですが、私は今回のゼミ旅行で徳島県に来るまで、DMV の存在を知りませんでした。地域活性化として機能させるには、広報面でももう少し工夫の余地があるのではないかなと考えました。
3. DMV はそのものがとても画期的で興味深いものだったので、地方活性化でなくとも、もっと都市部でメジャーになって赤字脱却ができるのではないかと感じた。地方活性化としては、鉄道ファンに焦点を絞っているようでとてもいいと思った。モードチェンジの瞬間をもっとアピールしたり実用性を無視するなど、もっと鉄道ファンを呼び込むことに特化してもよいのではと感じた。
4. たつの市のコンテストを経験して以降、地域活性化施策がとても身近に感じており、今回の DMV はそういった観点からも楽しめました。私が乗車していた時には、いわゆる鉄オタの方が乗車されており、地域活性化施策の成功例を見ることができて感慨深い気持ちになりました。
5. 赤字路線をそのまま廃線にしてしまうのではなく、赤字は覚悟でエンタメ化して観光業全体で利益を出そう、町を知ってもらおうという取り組みは斬新だなと感じた。純粋に DMV に乗りたくて予約して乗りに来ているご家族もいて、鉄道ファンを中心に集客できれば観光全体で黒字化というのも考えられるなと思った。
6. 私の父の地元である鳥取県でも年々人口が減少し、いかにして人を呼び込むかという課題に向き合っていますが、実際に使われていた線路を再利用し、世界に先駆けた交通手段を呼び込むことで人を集めるという戦略に感服しました。実際に乗せていただくこともでき、素晴らしい思い出になりました。
7. 鉄道と陸上両方を走る乗り物は非常に画期的だった。一方で、当日ほぼ乗客がいなかった状況や、JR 線においても赤字が続くような環境を鑑みると、鉄道網があまり盛んでない地域への導入は、費用がかさむだけでなく、地元住民の乗客増加は難しいのでは無いかと坎じ、そこが課題になりうると感じた。
8. 廃線の危機を DMV を用いることでそれを維持、また観光資源にもつなげるとはすごいアイデアだと思った。運賃もバスと変わらない料金で地元で普段使いする方にも優しく、乗っていても結構楽しかった。一方で時間帯もあるだろうが、地元の方はほとんど乗っていなかったのが本当に使う人がいなくて廃線になったのだと感じた。停留所もやや観光向けかと感じたので、普段使いしてもらうことはあまり考えずにもっと観光に振り切ってもいいのではと思った。
9. 何人か DMV の写真を撮られている方もおり、観光資源として活用されていることがよく分かった。モードインターチェンジの際に、車内の乗客も楽しめるように工夫されていたのも良かった。民業補完であるために多少割高な運賃ではあるが、「世界初」であることを踏ま

えるとぜひ乗ってみたいと思える交通手段だと思った。

10. 電車とバスどちらにもなれるという発想を、実現しているものが徳島にあることは今回初めて知った。DMV の走る範囲がもっと広がり、「徳島といえば DMV が走っている」というような状態になればいいなと思った。DMV 専用の路線しか走れないという点があるためなかなか難しいが、子ども連れなどにもワクワクさせるような観光需要がありそうだと感じる。
11. DMV 自体は非常に面白く魅力的な乗り物だと思ったが、やはり徳島の田舎の小さい村まで足を運ぶかと言ったらなかなか上手くいかず、採算をとるのが難しそうだと感じてしまった。徳島市くらいの地方の中核都市の方がより集客は見込めるのではないかと考えた。ただ、廃線を活用して新しいものを呼び込むというのは地方活性化として大事な取組だと感じる。
12. 世界で初めて DMV の本格営業運行を開始した所であるため、それを観光資源として売り出し、多くの人を呼んでいる点で興味深かった。一方で、DMV 以前から阿佐海岸鉄道には定期券など地元利用者が少ない状況であったとも伺ったため、果たしてそもそも残すべきものだったのかはやや疑問ではある。
13. 非常に興味深く感じました。実際に、廃線の危機にある路線を復活させることで、地域活性化にもつながっているというお話をお伺いし、地方創生の仕組みの一つとして大変勉強になりました。駅の近くにも文化博物館のようなものもあり、地域の力をあわせて、地域を盛り上げようとされている姿がとても印象的でした。
14. 以前ハウステンボスで水陸両用バスに乗ったことがありますが、それに比べると面白さは少なかったように思います。しかし、DMV は地域の公共交通機関としての機能を持っているという点に価値があるのではないかと思います。一方で、乗り物に乗るために旅行をする人は少ないので、DMV 単体を観光資源として打ち出していくのは難しいように感じます。
15. ウミガメ博物館と同じく、そこかしこに世界初 DMV という旗が掲げられており、街全体としての気合いが感じられたと共に、徳島の右下という形で「点」ではなく「線」としての観光の促進が感じられました。ただ正直なところ DMV の採算を取れるほど観光客が来訪しているようには思えないので、どのように採算を合わせていく計画なのか興味が湧きました。
16. 世界初という強力なメッセージを発信できるという点や、遠征を厭わないイメージの鉄道ファンなど、多くの人をターゲットに捉えられる取り組みなのではないかと感じました。また、DMV であることで、インフラの最大活用ができていくというふう思うため、そういった運用の面からも評価できる取り組みであり、勉強になったと感じます。
17. まず、DMV というものを今回の企画まで知らなかったのだが、非常に面白い取組だと感じた。交通系に関してありそうでなかったものが実装されているのは特に男子なら興味を惹かれる人も多いと思う。今後はその利便性や革新性を全面に押し出していけば少しずつ認知されていくと思う。
18. DMV の取り組み自体は非常に面白く、実際に見てみるととても印象に残りました。その一方で、関西にいても、DMV は「聞いたことがある気がする」という状態であったため、より一層の PR が必要かもしれないと感じました。また、どうしても現地まで行くための交通の便は少し悪いため、そこまで来て貰うための施策が必要であると感じました。
19. ゼミ企画で初めて DMV について知ったので、実際に DMV の写真を撮りに来ている観光客がいて DMV のすごさを改めて感じた。今は、乗り物オタクの方々が主に DMV を目的に観光しに来ていると感じたので、地域活性化策としてより効果を発揮させるためには、より広い層の観光客にまずは DMV の存在を知ってもらう必要があると感じた。
20. 世界で初めて dmv の導入を成し遂げることで廃線を回避したという本事例は、全国各地で危機に瀕している地方路線の持続可能性を示すのではないかと思います。その背景に JR 北海道という地理的に遠い主体を巻き込んで、本件を成功させたという点で、熱意の高さを感じました。



## 四国 2 日目：(徳島) 小松島港視察で学んだこと、感じたこと、感想

1. 港の老朽化対策について学び、予防保全など、笠場班の研究の橋梁の老朽化対策に通じるものを感じました。壁面や地面など、中で老朽化が進み、なかなか表面には老朽化の進行が顕著にあらわれにくい箇所においても工事が進められ、対策が講じられていることを知れました。そして、港において実際にどういった場所の老朽化が進んでいてどのような工事が進められているのかということについても学べてよかったです。
2. 想像していたよりも海が綺麗に澄んでいたことが印象に残っています。また、停泊していた船は小型のものが多く、設備の老朽化も見受けられたため、昔と比べて港の役割にどのような変化があったのだろうかとなりました。整備局の方にも非常に丁寧にご説明いただき、貴重な経験となりました。
3. 地方の港ということで、これまでゼミで見てきた大都市の港とは雰囲気が違ったが、コンテナやその積み下ろしのシステムなど、大部分は大きな港と同じで、システム化されていることが実感できた。規模は小さいながらも、個々の企業の需要を満たす重要な港であると感じた。
4. とても寒かったです。職員の方にお話を伺ったところ、夏は暑く冬場は寒い環境らしく、大変なんだとひしひしと感じました。周りにほとんど建物がない環境は、港なので当たり前と言えば当たり前ですが、市街地で育ってきた自分にとってはとても新鮮でした。
5. シャーシだけを船で輸送することで、ドライバー不足に対応したり人件費を削減したり、輸送スペースの効率化など、大きな効果をもたらしているなど感じた。外航クルーズ船が近日中に寄港するというので、コロナが世界的におさまってきて海外との距離感が再び近づいて来たんだと感じた。
6. 北海道の苫小牧港や宮城県の仙台港など、この一年でも様々な役割と特徴を持つ港を視察させていただきましたが、小松島港もまた、これまでにない特徴を見ることができました。山のように規則正しく積まれた原木や、対岸にあっても圧倒的な存在感を持つ木材チップの積み下ろし設備など、港や港湾はその土地に深く関連づいているものであることを再認識しました。
7. 港は自分にとって遠い存在で、教科書で学ぶもの、という印象が強かったが、実際私たちの生活に密接に関わっており、とくに災害時には非常食を運搬するトラックそれ自体を運送するなど幅広い役割を担っていることを知れてよかった。
8. やや小ぶりの港であったが、木材が盛んに取引されており、バイオマス発電所もできてきていると知り、国内のどこでもカーボンニュートラルの動きがあると感じた。また、クルーズ船が寄港するというので、その経済効果がかなり大きいことを知った。寄港が再開したということでこれから回復に向かっていけばと思う。
9. 港の老朽化に対して、対処療法的な保全事業だけでなく、予防保全事業も行っていることがよく分かった。南海トラフ地震の影響を大きく受ける四国地方であるが、四国地方整備局としても、南海トラフ地震への備えとして様々な対策を練っていることを学んだ。徳島の文化遺産である阿波おどりでもクルーズ船をもてなしているようだが、海外の観光客にも非常に好まれそうだなと思った。
10. 国際物流ターミナルを見学したとき、木材をあれだけ積んでいる港を見たのは初めてで、小松島港の特色を最も感じた。徳島から、どこの港と貿易が多いのかというお話も印象に残った。四国の右下にある徳島は、他の四国地方の県よりも、関東方面での交易がしやすいことに気づけた。有名でない港だからこそ、ニッチな特色があることを学びと感じたため、各地

- に存在する港により興味を持つことができた。
11. 今まで視察してきた港の中では結構小さい規模だったので、規模の小さい港だからこその地元にとっての役割というのを学ぶことができた。せっかく 2 班に分けての細かい視察スケジュールを組んでくださっていたので水上視察ができないのは残念だったが、陸上からでも十分港の動きを知ることができた。
  12. これまで訪れた港と比べて、役割的にも大きさ的にもこじんまりとした印象を受けた。最後まであった南海フェリーも徳島港に移転し、本格的に物資輸送だけになった様子が伺われた。地元の産業と結びつき、木材チップを多く輸入しているという点からも、産業に結びついて人よりも物流がメインの港であると感じられた。
  13. 四国の産業として、製紙業が盛んであることは知っていたので、実際に木材チップを多く輸入していることを知り、実際に盛んであるのだと感じましたし、いろんな港をゼミで見学させていただく中で、その地域ごとの産業の特徴に、輸出入を行うモノが合致しているという部分が知的に面白いと感じました。ありがとうございました。
  14. これまでは、国際路線などもある大きな港を見学することが多かったのですが、地域の港を見られたのはとても新鮮で、日本の海運の全体図を把握できたような気がしました。小松島港では、製紙やバイオマス発電に使う木材チップをベルトコンベアで運んでいるという話がとても印象的で、それがどれなのかを質問して確認したかったのですが、あまりの寒さに断念しました。
  15. 最も印象に残ったのは、木材チップが代表的な輸入品目となっているということです。四国地方、特に四国山地から近い徳島では製紙業が盛んであるという地理的事実と合致しており、勉強したことが実生活で使われている感じがして嬉しくなりました。
  16. 木材チップを主に取り扱っており、その近くにバイオマス発電所もあるという知見は大変勉強になりました。また、複合一貫輸送ターミナル整備事業という取り組みによって、大型の船の受け入れや災害時のインフラになり、台数においても増加傾向になるという効果もあり、港も進化を続けるのだなと感じました。
  17. これまでの港視察企画でも感じてきたことではあるが、やはり港はその地域帯の産業の要になっていると感じた。さらに、港を有効に活用することでその地域にもたらされる経済効果は極めて大きく、自治体としても非常に優先度が高くなる点に合点がいった。
  18. 最初はあまり大きな港である印象はなかったため、クルーズ船も寄港している港であると知って驚きました。また、四国山地があることで、沿岸部に都市が集中しているという話を聞き、前日の道中は非常にのどかな地域であったことを思い出しました。高松港と合わせて、今まで視察した港の中でも、特に市街地に近い港であると感じたため、観光により力を入れても良いのではないかと感じました。
  19. 正直に申し上げると、小松島という名前は聞いたことがなかったので、非常に小さい港で役割も小さいと思っていた。しかし、実際にはそんなことはなく、取扱量は小さくとも、日本だけでなく世界の物流、生活を支えている非常に重要な港であることを知ることができた。
  20. 小松島港が四国で果たしている役割を理解したのちに、実際港に降り立って、視察することができたのが非常に勉強になりました。今回、海上視察は断念することになりましたが、講義と陸上視察という両面から小松島港の理解を深める良い経験になりました。

## 四国 2 日目：高松港視察で学んだこと、感じたこと、感想

1. フェリーで輸送する際に、費用や手間などの問題から、分解せずに組み立てた状態でフェリーで運ぶというお話はすごく理にかなっているなと感じました。展望台から港の動きを見て説明を聞く

- という経験は、普段、タワーに登っても景色を見るばかりで港について詳しくみることはなかなかなかったので、新鮮で興味深かったです。豪華客船が寄港すると、島と四国を結ぶ比較的小さなフェリーに支障が生じるという話はどちらの利益も蔑ろにできるものではなく、難しい問題であるなと感じました。
2. 高松港をシンボルタワーから眺めた際、車を乗せた船の出入りが激しかったことが印象に残っています。また、車のほかにも離島からの乗客も運んでいるようで、この港が重要な役割をになっているのだということが分かりました。小松島港と比べて、近くに大きな駅や商業施設が立地しており、活気に溢れた港のように感じました。
  3. 高松港は、その周りに主な観光スポットや輸送すべき商品を扱う企業が集結しているのが印象的だった。港を中心とする一定の範囲内に、県庁などまで含む様々な機関がまとまっているのがいいと思った。また、フェリーの発着所を増設するなど、今進化真っ最中であることがよくわかり、楽しみだと感じた。
  4. 高所から港を見下ろして防波堤を観察し、その役割を確認できてとても良かったです。また、コロナ以来久しく帰ってきていなかった船がようやく帰港するというのを聞いてなんだか胸が熱くなりました。また、香川の離島に行ってみたくくなりました。
  5. シンボルタワーからの眺めがとにかくよくて、高松市を一望できる、名前通り高松市のシンボルだなと感じた。高松港を中心に様々な企業が立地しており、その中に世界的シェアを誇る企業が複数あるというところに、高松市の都市としての強みを感じた。
  6. 港湾の方は小さい港ですが何とか頑張っていますといったことをおっしゃっていましたが、それでもたくさん積まれたコンテナの間をひっきりなしにリフトが行きかっている様子は物流の要を担っていることを感じるには十分で、またポートタワーからの高松港と、市内を一望できる絶景は圧巻でした。
  7. ちょうど昨年 2 月、友人と旅行で高松を訪れた。そのとき、小豆島に渡るためにフェリーを利用したため、今回の視察が少し身近なものに感じられた。旅行ひとつにしても、そのようになにか経験しておくことが視野を広げるひとつのキッカケになりうるのだと言うことを学べた。
  8. 今まで見てきた港と比べるとかなり規模が小さく、地域に密着した港であると感じた。一方で小規模だからこそ効率的に動かされているようにも感じ、また地域の日常生活において欠かせないものであると感じた。高松港では灯台の方へ歩いていくことができ、非常に景色もよく、整備されており、いわゆるインスタ映えなスポットだと感じた。
  9. 四国の中心都市である高松を初めて訪れ、港湾を中心に発展したまちであることを学んだ。クルーズ船が港に着いてから、海外の観光客の方が市街地まで出るのに時間がかかるというお話だったが、新しい岸壁ができればその心配も解消できると思うし、バスとどのように連携しているのかも気になった。高速バスの時間をもう少し遅らせて、地域活性化の成功例である丸亀商店街をのぞいてみたかったが、それは次に高松を訪れたときにしようと思う。
  10. 南海トラフが来た際には、最も被害の大きい地方ということもあり、防波堤などの災害対策がしっかりと行われている点が、ユニークな点だと感じた。また、展望台から見下ろすと、瀬戸内海にはたくさんの港や島があり、高松港からも肉眼で見える範囲にたくさんの島があり、フェリー・海上輸送の重要性が高いことも実際に感じた。
  11. 地元企業との結びつきが非常に強い港だという印象を受けた。高松のそれぞれの地区ごとの特徴を細かく説明していただき、どの地区がどいういう役割を担っているか理解することができた。

- 展望タワーから高松を見渡すと、想像以上に栄えていて四国の拠点であることがよく分かった。
12. 小松島港や徳島港と同様に、高松港も大きな港と比べるとややこじんまりとした印象を受けた。高松港が取り扱っている貨物は日本全体の0.4%と非常に小さかったが、四国随一の港としての大きな役割が感じられた。特に、広島や神戸を経由して、韓国や中国、米国に対しても輸出入を行っており、広い外の世界とのつながりが感じられた。
  13. 四国の港の中でも中枢になっている港であるということを感じました。また、港、駅、バスなどの交通網がコンパクトにまとまっている地域であり、一つの地域に交通インフラを集約することでより便利に、より快適に過ごせるまちづくりを行うことができるということを学ばせていただきました。この気づきを活かし、様々な地域を訪問した際、どういった街づくりになっているのかなどを注視するようにしようと思いました。
  14. スライドでの説明の中では、港のコンテナの動きを早送りした動画が印象に残っています。作業の流れがとてもわかりやすく、港の1日が想像できました。また、世界で大きなシェアを誇っている企業が集積しているということを知らなかったのが、勉強になりました。このような企業の工場をどこに集積して、いかに輸出時の移動効率を上げるかが今後大切になるのではないかと感じます。
  15. 高松の街が港や駅を中心にコンパクトにまとまっている様子が伝わりました。タワーの展望台から望む高松市は、中心街からそれほど遠くないところに多くの建物が密集しており、人も街も集中しており、さながらコンパクトシティのような印象を受けました。
  16. 観光と港の機能が両立しており、洗練された港湾であると感じました。芸術祭や、唯一性のある島の数々があり、セトシルベやタワーなど、景観が美しいなと思いました。内航航路と、遠くへ行く輸送大型船などが両方あり、クルーズの寄港地にも選ばれており、これからも注目していきたい港湾であると思いました。
  17. 上述の回答に通じる部分はあるが、高松やその近隣地域にとって不可欠であることを改めて実感した。特に四国随一の都市であり、関西にも近いという点で重要度は大きく、職員の方のご説明からも様々な観点で高松港の価値を高めていこうという気概を感じた。
  18. 何度か高松を訪れたことはありましたが、高松の中心部がこれほど海に近いことは知らなかったため、とても驚きました。また、今でも瀬戸内海の島とを結ぶ船が多く運航しており、この地域では船がとても身近な存在であると感じました。住民が日常的に船を利用している光景は、他の地域ではあまり見られないと思うので、新鮮でした。
  19. 小松島港と同じく、日本だけでなく世界の物流、生活を支えている非常に重要な港だと学んだ。しかし、小松島港とは違って、高松港は観光客向けの港であると感じた。というのも、シンボルタワー、サポート合同庁舎は非常にきれいで、港近辺の再開発も進んでおり、数年後にはより魅力的になっていると感じたからである。
  20. 高松港の四国での役割に加え、高松港を取り巻く世界的な各企業の話が非常に面白かったです。日常生活でなかなか触れる事はなくても地方に根ざしながら、世界的に活躍している日本企業があるという事を学ぶことができました。

今回のフェリー体験企画（ゼミ仲間と一緒に船で交流し、徳島までフェリーを体験し、寄港地でインフラを学ぶ企画）において得られたこと、感想や今後への要望

1. 先輩や同期とたくさん話すことができている機会になりました。インフラをただ学ぶだけではなく実際に自分がフェリーを体験した後にフェリーを主とした輸送の話などを伺うことができたのでより、理解しやすかったです。なかなか入れないところに入れていただき、貴重なお話を聞く機会をいただけて本当にありがたかったです。港の視察をしてインフラについて学ぶという企画がたくさんあるので、今後のゼミ旅行では、もう少し観光をメインにした企画など、全く違った企画があっても面白いなと思いました。
2. 今回の二泊三日の旅行を通して、普段のゼミではできないような深い話をしたり、皆の知らなかった一面を知れたり、何もかもがとても新鮮でした。特に、普段のゼミでは学年ごとに固まって話をしている印象がありましたが、今回のフェリー体験企画では学年や性別関係なく交流することができ、ゼミ旅行でしか得られない経験とはこのことだなと感じました。また、インフラ見学やブリッジ見学では、普段のゼミと同様に真剣に学ぶ姿勢を意識し、メリハリをもって過ごすことができたのではないかと思います。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました！
3. 今回、ゼミ生と近い距離で数泊一緒に過ごすことで、数多くの会話が生まれ、とても貴重で有意義な時間を過ごせた。また、今回は地方の観光スポットや港を見て回り、それぞれの良さや課題を学ぶことができた。成長しきっている大都市の港や町と違った、現実の厳しさや将来の可能性が学べたことが面白かった。フェリーも、豪華でなくとも移動の手段として十分に選択肢の一つになるものであり、特に今回のようにわいわいと乗るのは楽しい経験だった。視察や旅行の企画、ありがとうございました。
4. ゼミ旅行体験前は、船酔いしないか、4日間自分がストレスを感じることなく、また他人にストレスを与えることなく過ごすことができるかなど様々なことを不安に感じていましたが、いざ始めてみたら心配する必要など全くなく、とても楽しむことができました。特にインフラについてじっくりと学ぶ機会がこれまでは少なかったので貴重な機会でした。ここまで詳細な話を聞くことができ、逆に自分にはインフラ業界は向いていないのかなと感じる部分があったことが今回の大きな収穫でした。このような機会を設けていただき誠にありがとうございました。
5. 普段のゼミ活動では見れない、出さないみんなの一面が見られて、とても仲が深まったと思う。シンプルフェリーも各港も日本の流通を支えている一方で、普段生活している中ではあまりみることがない部分なので、実際に船にのり、港に訪れ、お話を聞かせていただくことで、流通の成り立ち、工夫を深く理解することが出来た。来年も様々なイベントを通して見聞を深めながら、縦も横もつながりを強くしていければいいなと感じた。
6. 前回のフェリー体験もとても楽しかったですが、今回はより多くの仲間と過ごせたということもあってとても充実したツアーでした。普段のゼミ活動では班分けなどの事情であまり話すことのなかった先輩方とも、フェリーの中や徳島の視察の中では班の垣根を越えて、時にはお酒も交えながらたくさんコミュニケーションがとれて楽しかったですし、今回の省庁訪問などを通じて自分の将来に浮かんだ疑問や不安などを先輩と一対一でゆっくりお話することもでき、参加させていただいて本当に良かったと心から思いました。今後もゼミでこういった企画があった際はぜひ参加させていただきたいと思います。
7. ゼミ生と1年間を振り返るミーティングを行ったことで、改めてこの1年間で感じたことや考えたこと、チームで学びを深めることについて考えることが出来た。また、徳島と香川という隣り合う県でも交通網の発達やインフラの整備、その土地を活かした整備など違いがたくさんあることに驚いた。この4日間で学びえたことを糧に、さらに広い視野で様々なことにアンテナをはりながらさら

- に知識を増やしていきたい。
8. 今回は今までの視察と異なり、ややシンプルなフェリーに乗ったり、やや小ぶりな港を視察したり、今まで経験していなかったのが貴重な機会だった。一方で DMV など地方創生の足がかりのようなものを間近で見ることができワクワクした。加えて、4年生と最後の旅行であったことや、2年生の参加が多かったこともあり、ゼミ生同士で中を深めることができたと思う。特に旅館での飲み会はみんなの今まで見たことがなかった一面も知れて非常に面白かった。ただ船での食べ放題を楽しむにしていた節があるので、次回は期待したい。忙しい中様々なセッティングをしていただいたおかげで貴重な経験ができました。ありがとうございます。
  9. 今回の企画を通して、ゼミ生とより仲を深めることができ(4年生とは最後の思い出を作ることができ)大変良かったと思う。また、四国の中でも、そこまで注目のされていないところを訪れることができ、ゆったりした旅行の良さを体験することができたと思う。加えて、地域活性化をする上で、より多くの観光客に来てもらうにはどういった工夫をすれば良いのか、事例を通して改めて考えさせられる機会にもなった。来年は念願のクルーズをぜひ体験したいと思う。
  10. 最も良かった点は、今年度最大の人数で旅行することができ、ゼミ生徒の親睦が深まった点である。このように親睦を深めることができる理由として、フェリーがあると思う。これまで数回フェリーでの企画を経験してきて、改めてフェリーの良さに気づけた。皆で同じ場所で話したり、共同生活ができるという点や、綺麗な景色を見ることができると、フェリーの良さだと感じる。今回は、フェリーに加え、宿舎で一部屋に集まる経験など、親睦を深める時間がより作れた旅行だったと感じる。今後も、ゼミ生みんなで親睦を深められる時間が作れるような旅行が楽しみである。
  11. 今回も盛りだくさんな企画を用意してくださってありがとうございました。4年生とは最後の旅行を楽しめ、2年生とはさらに仲良くなることができ、よりゼミ内の縦の絆を深める良い機会になりました。
  12. これまでのフェリー企画と同様に、1年間一緒に論文執筆した仲間と、船という非日常空間で旅することが出来るのは毎度貴重で、新しい学びと発見があり、本当に今しかできないことであると感している。寄港地での港見学や、今回のフェリーのブリッジ見学のように、一般人としては絶対に入ることが出来ない場所を視察・見学することが出来るのも、興味深く、先生のおかげであると非常に感謝している。今後においては、国内のまだ訪れていない港はもちろんのこと、海外の港についても視察し、他国の貿易状況や、他国から見た日本の貿易など、より世界的で幅広い見方で物事を見てみたいと思う。
  13. 1年の班活動ではなかなか話せなかったゼミ生とも話すことができ、ゼミ内の親睦が深まった良い機会になりました。また、港湾やフェリーのご説明も丁寧にしていただき、今まで知らなかった知識や、考えてこなかった考え方などを知ることができて、大変勉強になりました。就活を行っている私自身の身から考えても、いろんな会社が世の中にはあって、それぞれの会社の人達が思いを持って働かれています、社会の広さや奥深さも感じられたフェリー体験企画になりました。また、フェリーに乗船されていた一般のお客様とも一部交流できて、よい機会となりました。
  14. 今回も、ご企画いただきありがとうございました。フェリーに乗るという体験自体が、一般的な大学生活ではあまりないことだと思うので感謝の限りです。また、複数日をゼミの仲間と共に過ごすことによって、縦のつながりが生まれ、横の繋がりも深まると思うので、論文執筆などにも大きく役立っていると感じます。普段のゼミ活動だけでは同じ班の学生としか仲良くなれませんが、班を超えた関係が作れるのはゼミ旅行のおかげだと思います。

15. 今回得られた経験の中で最も得がたいものだと感じたのは、ゼミ生との様々な形での交流です。普段のゼミ活動では、どうしても同じチームの人や仲の良い人と固まってコミュニケーションを取ることになりがちです。ゼミ旅行を通して、特に班が違ってこれまで関わりが少なかった2年生達とたくさん交流する機会があり、コミュニケーションの幅が広がったと感じます。今後も定期的に旅に行くことで、ゼミ生同士の交流を促進させてよりゼミ活動を充実させるような企画をして頂けると嬉しいです!毎回様々な企画をして頂きありがとうございます!
16. シンプルフェリーという形態があり、その狙いや、DMVなどで観光による集客をしようとしている四国の右下という取り組みなど、外に出ることでわかることを色々学べて非常に楽しく、視野の広がる経験ができました。また、ゼミ内においては、船上や旅館での会話で、親睦を深められたため、そういう面で貴重な機会になったと思います。卒業される4年生と最後に旅行ができたことも非常に良かったです。今後は、海外のクルーズに乗れることを祈るばかりです。
17. 今回の企画を通じて、以下の2点で我々学生にとって非常に良い機会となると感じた。1点目は、インフラ視察などについて、やはりその土地のその施設で働く人とディスカッションできることは1次情報に触れることができ刺激あるものだと思う。適宜質問を投げかけられる機会があるのも魅力的である。2点目は非日常の空間で交流できる点である。勿論普段のゼミ活動内でもコミュニケーションは取れるが、非日常でのコミュニケーションだからこそ普段はしない話やできない話がしやすくなる点は確実にあると思う。そういった点で今回のような企画があることは非常に嬉しい。
18. 今回初めて船以外の場所で宿泊し、他のゼミ生とより一層仲良くなれたと思います。特に2年生とはなかなかゆっくり話す機会がなかったため、今更ながら、色々なことを知ることができました。大学生活最後にとってもいい思い出を創ることができました。
19. やはり一番感じることは、赤井ゼミに入らないとできない経験だらけで勉強になるということである。勉強になると同時に、ゼミ生、赤井先生と交流もするので、親睦を深めることができることもうれしい限りである。赤井先生と関係者の皆様、本当にありがとうございました。最後に今後の要望を述べさせていただくが、私個人はこのゼミ企画を楽しみに赤井ゼミに所属することを決めたので、来年からもぜひ続けて行ってほしいと思う。欲を言うと、大型クルーズ船の視察等も行うことができれば非常にうれしい。
20. 赤井ゼミの体験企画は、学術的な体験とゼミ生との交流体験の2つを得ることができるという点で、まさによく学びよく遊ぶをよく象徴していると思います。そして、そんなゼミでの体験があるからこそ、つらい論文執筆も仲間と乗り越えられるという点で、非常に得難い体験だと感じました。

#### コーディネーターからのお礼

このたび、フェリーや地方創生の現場、港湾を研修の場とし、インフラの実態とその挑戦について学んだ。インフラの必要性及び意義について多くの知識を得た。インフラは港湾のような公共のインフラだけではなく、物流を支えるフェリーも、地域の鉄道も重要なインフラである。安定した物流機能に特化するフェリー、人口減少に直面する地方での鉄道維持に向けた挑戦を学んだ。DMVは世界に一つしかなく、ポテンシャルを活かした今後の戦略が問われる。徳島、香川では、港湾の機能を学んだ。今回の企画は、オーシャンフェリー様、四国の右下観光局様、国土交通省四国地方整備局様など、数多くの方のサポートをいただいて実現した。ここに深く感謝したい。このような貴重な体験が、学生が社会に出て、日本のために活躍する際の糧につながると嬉しく思う。

引率教員 赤井伸郎(2023年4月19日)